

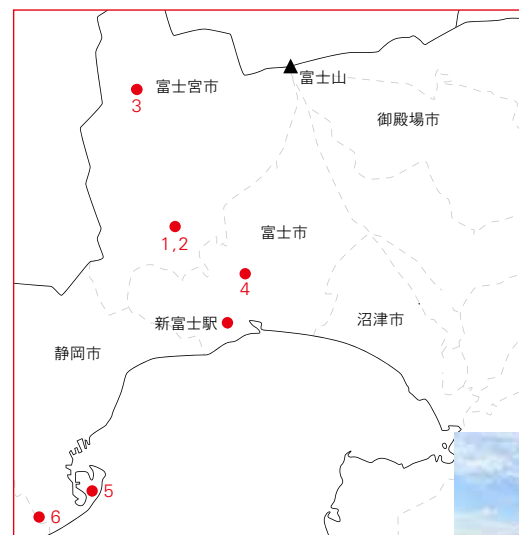
## 富士山～荒ぶる自然と信仰、木とともに生きる旅

富士山は日本を代表する観光地ですが、いくたびもの噴火により神の住む山として畏れられ、崇められてきた歴史もあります。今では海外からの来訪客が多数訪れ、富士山を堪能できる施設や製品、サービスがあります。富士山麓に広がる森林は、富士山信仰や人々の生業と深く関係してきました。伝統的建築物や民家に木材が使われてきたほか、富士ひのきはブランド材として新たな活用が広がっています。さらに木と森を通じて、日本の良さや自然への親しみを伝えようとする取組も増えています。富士山という日本のシンボルを、木の文化という文脈でたどってみるとこの地の新しい楽しみ方が見えてきます。



静岡県富士山世界遺産センター map1

世界遺産を「保護し、保存し、整備し及び将来の世代へ伝えることを確保する」拠点施設です。中心となる展示棟は木格子を組み上げた逆円錐状の「逆さ富士」の形をしており、木格子は「FUJI HINOKI MADE」の木材を使って、ひとつひとつ形の違う8000ピースの部材を組み合わせて作られています。展示棟内ではスロープを登りながら、映像や展示を通じて富士山の疑似登山体験ができます。 静岡県富士宮市宮町5-12 <https://mtfuji-whc.jp/>



### 世界文化遺産・富士山と木の関係

日本のシンボルである富士山は、その美しさだけでなく、度重なる大噴火により神の住む山として畏れられ、崇められてきた歴史があります。富士講に代表される信仰と浮世絵など様々な芸術を育んだ富士山は、人と自然の共生の象徴であり、「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」として2013年に世界文化遺産に登録されました。

富士ひのきは静岡県の富士流域で植栽されているひのきで、火山灰質のため長い年月をかけて成長し、年輪が詰まって強度の高いのが特徴です。富士山の自然とともに、この地域の文化や暮らしと深く関係してきた木を辿る旅が、富士山の新たな顔を見せてくれます。



### 富士山本宮浅間大社 [map2](#)

全国に約1,300社ある浅間神社の総本社です。本殿は徳川家康による造営で、二重の楼閣造は「浅間造り」と称され、他に例がありません。一説には富士山を仰ぎ見るために二重楼閣にしたともいわれています。

静岡県富士宮市宮町1-1

<http://fuji-hongu.or.jp/sengen/>



### 富士ヒノキの森～FUJI HINOKI MADE

富士市や森林組合、加工組合などで組織する富士地区林業振興対策協議会が「FUJI HINOKI MADE(フジヒノキメイド)」として地域のブランド材を生産しています。これは「環境に配慮して適正管理された森林」を示す国際認証SGECを取得した山林から産出され、静岡県富士山世界遺産センターの木格子は、国際基準の認証「SGEC/PEFC-CoCプロジェクト認証」を国内で初めて取得しました。また、JR新富士駅構内の「アスティ新富士」の入口前の階段や天井にも活用され、来訪者を迎えてくれます。

Facebook : FUJI Hinoki MADE フジヒノキメイド有限責任事業組合



### 旧稲垣家住宅 [map3](#)

文化元年(1804年)、大淵地域に建築された稲垣家住宅は、富士市内で現存する最も古い民家で、現在では富士山かぐや姫ミュージアムの屋外展示として、広見公園内に移築されています。住宅は入母屋形式で兜造りの茅葺屋根で、立派な梁が重厚感を感じさせます。「使える文化財」としてこの住宅を舞台に音楽会が開かれたり、公開日には囲炉裏に火を入れお茶をふるまうサービスもあります。

富士山かぐや姫ミュージアム

<http://museum.city.fuji.shizuoka.jp>



### 富士山の森から生まれる

#### プロダクトたち

「Mt. FUJI WOOD PROJECT」は、富士山周辺の森林整備や環境保護、資源活用を目的とした木製品開発プロジェクトです。デジタル製造技術で、微細な加工を施したデザイン性の高いアイテムは、その購入を通じて富士山周辺の森を維持することにつながります。

「木もの NAKAYA」の木工職人の中矢さんは、岐阜県高山で家具職人として経験を積んだ後、富士宮市に移住し、倒木や間伐材などの生木を使った美しい日常使いの小物やランプシェードを制作しています。多様な樹種が生み出す、自然の造形美は人気を博しています。

Mt. FUJI WOOD PROJECT

<http://www.mtfuji-wpj.com/>

木もの NAKAYA

<https://www.komono-nakaya.com/>



### 日月倶楽部 [map4](#)

「日月倶楽部」は富士山の自然を眺めながらゆったりと自然に触れる宿泊施設です。古民家を移築した建物や富士山を望む能舞台などを使って様々な滞在・体験ができます。富士箱根伊豆国立公園内の自然湧水や自然林に恵まれた約2万坪の敷地を使って、統合医療に基づいたプログラムで予防医学のアプローチも実施しています。

静岡県富士宮市猪之頭2271

<https://hitsuki-club.com/>



### 三保松原 [map5](#)

2013年、富士山世界文化遺産の構成資産に登録された美しい景観が特徴です。約7キロの海岸に約3万本の松が生い茂り、富士山と海とで生み出される風景は歌川広重の浮世絵など多数の芸術作品に登場しています。一角には、天女伝説で知られる羽衣の松があり、毎年10月には三保羽衣新能が開催されます。

静岡県静岡市清水区三保



### 日本平夢テラス [map6](#)

標高300mの丘陵地にあり、駿河湾越しに富士山を仰ぎ見ることができます。静岡市や富士市から調達した「しずおか優良木材認定制度」により認定されたひのき、杉を使用しています。施設内では、日本平の歴史や文化を紹介する展示や景色を楽しむラウンジスペース、展望フロアがあります。

静岡県静岡市清水区草薙600-1

<https://nihondaira-yume-terrace.jp/>

## 高山・飛騨～木の文化をたどって歩く、歴史と技の楽しみかた

高山市の、飛騨工制度が有する「木を生かす」技術や感性、文化と社寺建築群や大工一門の作品群、伝統工芸等は「飛騨匠の技・ここ～木とともに、今に引き継ぐ1300年」として2016年、日本遺産に登録されました。飛騨市の古川で古い街並みの趣を感じながら、匠の技やからくり人形の操り体験などができる施設を巡るのも楽しそうです。古民家を改装した体験型宿泊施設では、木と向き合ってもものづくりにいそしむ、次世代の匠たちを育てる取組も始まっています。



吉島家住宅 map1

1907(明治40)年に建てられた町家で、国の重要文化財に指定されています。当時の豪商の町家の面影を伝える大規模な建物で、漆が施された柱や梁、立体的な小屋組など、すみずみまで神経のゆき届いた繊細で華麗な美しい造りが見どころです。

岐阜県高山市大新町1-51

高山市公式観光サイト(P 20 掲載の事例)

<http://kankou.city.takayama.lg.jp/>

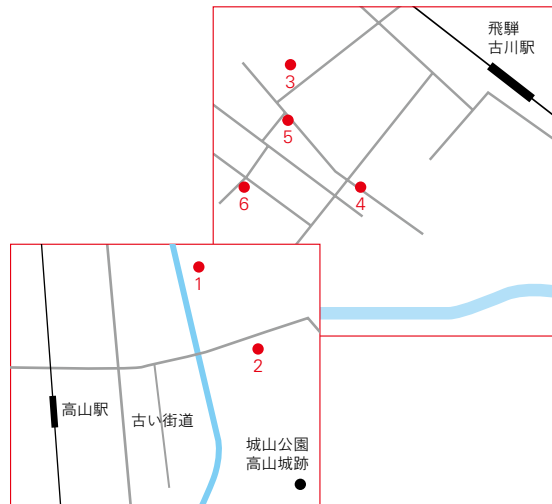


撮影者：池戸比呂志

### 高山城と

### ゆかりの建築群(神明神社絵馬殿) map2

近世初期、天正16年(1588)から慶長8(1603)まで16年の年月をかけて飛騨匠たちが建てた高山城。簡素な中に優雅さと、通常の社寺建築とは異なる力強さを感じさせます。



### 一位一刀彫

江戸時代後期、色彩を施さず、イチイが持つ木の美しさを生かした彫刻として完成されるものです。これらの伝統工芸の技術や木工技術の粋を結集して作られたのが高山祭屋台です。



### 飛騨春慶

400年前に高山で生まれた飛騨春慶は、江戸時代初期、打ち割った木の木目を生かすために透明な漆で盆に仕上げたことに始まる漆器で、木目が見えるため、素材の見立て、加工から漆塗まで全てにわたって高い技術が要求されるものです。





### 飛騨古川まつり会館 map3

古川祭りをいつでも体験できる施設。“動”と“静”が織りなす古川祭・起し太鼓を臨場感ある4K映像で紹介します。館内には本物の古川祭屋台3台を常設展示、からくり人形の操作体験、起し太鼓の試し打ち体験もできます。

岐阜県飛騨市古川町壺之町14-5  
<http://www.okosidaiko.com/>

提供：飛騨市



提供：飛騨市

### 瀬戸川と白壁土蔵街 map4

高山の奥座敷と称され、飛騨に残るもう一つの古い町並みとして知られる飛騨古川。碁盤のような町割りや古い町家が今も残り、出格子や土壁の美しい白壁土蔵街は趣きある町並みで散策にぴったりです。



### 飛騨の匠文化館 map5

提供：飛騨市

飛騨の匠の足跡、匠の技術、道具を展示。飛騨で育った木材を使い、飛騨の匠の技を受け継ぐ地元の大工たちによって建てられ、釘を1本も使っていません。館内では各種の継ぎ手や木組みの見本展示、千鳥格子などを組んでみることで体験コーナーもあります。

岐阜県飛騨市古川町壺之町10-1

飛騨市公式観光サイト

飛騨の旅 <https://www.hida-kankou.jp/spot/3065/>

### 飛騨の森でクマは踊る(ヒダクマ) map6

FabCafe Hidaは、誰でも気軽に木工やデジタルものづくりを体験できるカフェと木工房があり、また森歩きや滞在制作もできる体験型宿泊施設です。FabCafe Hidaの建物は、飛騨古川の地で100年以上の歴史を持ち、かつて酒蔵として栄えた古民家を改装しています。運営するヒダクマは、主に建築家やデザイナーの招聘、海外の建築系の大学の合宿の受入れ等を行いながら、広葉樹をはじめとした地域の森林資源の活用を推進しています。

株式会社飛騨の森でクマは踊る/FabCafe Hida

〒509-4235 岐阜県飛騨市 古川町式之町6番17号 TEL:0577-57-7686

株式会社飛騨の森でクマは踊る

<https://hidakuma.com/>

<https://www.facebook.com/hidakuma/>

FabCafe Hida

<https://fabcafe.com/hida/>

<https://www.facebook.com/fabcafehida/>

## 熊野古道・伊勢路～巡礼と尾鷲ヒノキを辿る現代の旅人

古代から中世にかけて、本宮・新宮・那智の熊野三山の信仰が高まり、多くの人々が熊野を参詣しました。熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、2004年に世界遺産に登録されました。熊野古道の発信・交流施設である三重県立熊野古道センターでは日本農業遺産にも認定された尾鷲ヒノキ6549本を使用しており、古道と木々の景観とともにその来歴を感じることができます。伊勢神宮内宮参りの後は木造家屋の街並みのおかげ横丁で楽しめます。また、尾鷲わっぱも素材の良さを実感できる逸品です。



### 熊野古道 map1

古代から中世にかけ、本宮・新宮・那智の熊野三山の信仰が高まり、上皇・女院から庶民にいたるまで、多くの人々が熊野を参詣しました。熊野三山を含む3つの霊場を結ぶ参詣道とその文化的景観が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。「熊野古道伊勢路」は、参詣道の中でも伊勢神宮と熊野三山の二つの聖地を結ぶ道です。熊野古道では、昔から林業者が古道を活用し、造林作業を行っていたため「尾鷲ヒノキ」の美林の中を歴史と文化を感じながら歩くことができます。



### おかげ横丁 map2

伊勢神宮へのおかげ参りブームが起こった江戸から明治期の伊勢路の木造家屋の古い町並みを移築などで再現した60店舗が集まるおかげ横丁。建築材料にはトガ(桐)材が使用されています。三重県や伊勢地方の魅力を散策し、食べ歩きやお買い物など、老舗の味から名産品、歴史や風習、人情まで一度に体感できます。門前町から伊勢神宮にお参りすると、そこには宮域林と呼ばれる伊勢神宮の森が待っています。

三重県伊勢市宇治中之切町52

<https://www.okageyokocho.co.jp/>





### 三重県立熊野古道センター map3

熊野古道の発信・交流施設として建設された「三重県立熊野古道センター」は、尾鷲ヒノキの角材を束ねて作られる組柱・組梁・組壁による簡潔で新しい木造の構造で、端正な日本建築の伝統を守りながら、木造の直線的な美しさ、力強さが表現されています。交流棟中央にある組壁には、トレーサビリティの証として、建設に使われた木々が大切に育てられた産地名が記されています。 三重県尾鷲市向井12-4 TEL:0597-25-2666/FAX:0597-25-2667 <http://www.kumanokodocenter.com/>



### 伝統工芸品「尾鷲わっぱ」 map4

古くからその材質の良さから全国的に有名な「尾鷲ヒノキ」。美しい木目と緻密な年輪が特徴です。また、その剛性の高さから建築資材としては最適です。「ぬし熊」の漆器は、その「尾鷲ヒノキ」の厳選した上質部分を使用して作られます。漆も天然素材にこだわり、一切の混ざり物の無い一級品を使用。気難しい天然素材ゆえに、その仕上がりは手にする者を魅了する深い色合いに仕上がります。  
ぬし熊 三重県尾鷲市大字向井493-15 TEL 0597-22-9960 <http://nushikuma.com/>

## 高知県梼原町～雲の上の町で森と出逢う

高知県梼原町は町面積の91%を森林が占め、標高1455mにもなる雄大な四国カルストに抱かれた自然豊かな山間の町です。ギャラリー、ホテル、物販、図書館など、来訪者を出迎えてくれる圧倒的な木の建築の存在感は、あたかも天空の森を巡っているような感覚を覚えるほどです。「梼原は木と最初に出会った場所で『木の恩人』のようなもの。梼原で木の良さや木を大事にして生きる哲学を教えてもらった」と設計を手掛けた隈研吾氏は語っています。



雲の上の図書館





photo by Takumi Ota

梶原町の特産物販売とホテルが融合したまちの駅「ゆすはら」は、梶原町の顔として観光客を出迎えてくれる施設。施設の東の外壁に用いられている茅は、町内の伝統的な茅葺屋根から学んだものだそうです。特徴的な景観を生み出しつつ、通気性や断熱性に優れ、自然の力で快適な室内環境を保ちます。コンセプトである、まちの中の「森」を体現する内部には、杉丸太の柱の森を巡るような楽しさがあります。



photo by Kawasumi・Kobayashi Kenji Photograph Office

「雲の上の図書館」は外壁や内装に梶原町の杉とひのきがふんだんに使われ、圧倒的な木のスケール感と木の温もりを随所に感じる洗練された空間。特に柱や壁から枝のように木材が伸び、交錯している姿が印象的です。図書館は鉄骨造り一部木造2階建て、延べ床面積は約1940平方メートルあります。



photo by Takumi Ota



「雲の上のギャラリー」は枝葉が広がって梶原の森に溶け込む建築。日本建築の軒を支える「斗拱(とぎょう)」という伝統的な木材表現をモチーフとして、刎木(はねぎ)を何本も重ねる「やじろべえ型刎橋(はねばし)」という、世界でも類を見ない架構形式の建物です。見事な景観を生み出し、木材の可能性を見せてくれます。

梶原町×隈研吾建築物

<http://www.town.yusu-hara.kochi.jp/kanko/kuma-kengo/index.html>